

俳句 大津俳句会

秋晴や釣人高く竿を振る

井芹眞一郎

盃交はす酸橘の香り満たしつ

秋山 恵子

柿落葉月日しづかに移ろへり

市原 初女

懸命に流派こぞりて秋花展

大塚喜久子

色付きて挽ぐ人もなし柿たわわ

坂本 セキ

青春をふと振り返る夜長かな

佐賀 久子

半世紀過ぎて会ふ友旅夜長

松尾 昭雅

澄む水に灌がれてゆくうたごころ

渡邊佳代子

俳句 つのはな句会

雲も樹も命も生のまま祭り来る

星永 文夫

鰯雲追いかけて今日を越えて行く

梅木トキエ

爽やかな午後の長椅子 ひとり

塚本 洋子

十界に父の声きく からすうり

榮田しのぶ

1丁も人も誤差動九月尽

志賀 孝子

もてあます午後二時草の絮とばす

田上 公代

国境を越えてゆるがす秋の雷

木庭 杏子

行間に父の戦後史雁渡る

矢嶋 道子

露草に青い鳥来て花咲かす

水野 春子

新涼やモカ色の街回遊す

上杉 波

短歌 大津短歌会

酷暑過ぎ土手に真紅の彼岸花

秋の訪れ告げるがごとし

鞍 岳志

主はなく荒れたる草むら寄り添いて

ねじ花の咲く人待ち顔で

菅野 静

転げたる夢ひろいつつ故里の

草の実鳴れる細道をゆく

吉永 恵子

卒寿なる姉を見舞えば笑顔にて

生かされている喜び語る

豊岡ミツル

薄紅に秋海棠が揺れている

断腸花という名を合わせ持ち

渡邊佐代子

台風之列島揺れる敗戦日

いのちを悼み平和を祈る

小平 善行